

①千葉大学海洋バイオシステム研究センター

研究施設と共に水族館を併設し、展示室には房総で集めた様々な標本を展示している。

房総の海に棲む生き物にこだわって展示し、自然のままに泳いでいる魚との時間を大切にもらえる昔懐かしい小さな水族館である。一般に公開しているので水族館を見学でき、説明もしてくれる。

②大嶽神社(祭神は、おおたけじんじや大國主命、おおくにぬしのみこと木花咲耶姫命、このはなさくやひめのみこと他二柱)

内浦字三畝田さんたけに所在。古来から地区の氏神として尊崇されていた。明治41年(1908)12月に村内の上浅間神社・下浅間神社を合祀。昭和53年(1978)7月、萩ノ巣に鎮座していた白幡八幡神社を合祀した。境内社として、熊野神社(石宮)、保良神社(石宮)がある。

③高生寺(日蓮宗)

内浦字萩ノ巣はぎのすに所在。創建は寛文3年(1663)3月。建長5年(1253)立教改宗の為、清澄山に登られる日蓮聖人が、ご両親の生家を振り返られた天拝ヶ崎に、中老僧日保上人が一字を建立したので始まり。木造日蓮聖人坐像は室町時代の作。平成15年12月22日、鴨川市文化財に指定。

④大山祇神社(祭神は、おおやますみじんじや大山祇命、おおやますみのみこと素戔鳴命)

内浦字奥谷おくやう(後に内浦山うちうらやま)に所在。創立年代由緒は不詳。内浦奥谷集落の氏神。同集落は山間に位置し、住民はほとんどが農林業に従事していたため、集落が次第に北東側に広がるに伴って、社の場所が3回遷かって現在地となった。明治43年(1910)5月10日に村内の八坂神社を併合。祭神スサノオを合祀した。

⑤内浦山県民の森

内浦山県民の森は、千葉県内で最初の「県民の森」である。

もともとこの一帯は、シイ・カシ類を中心とする暖帯の常緑広葉樹林を中心とした森林で、炭焼き生産地として内浦地区の共有林だったが、自然環境保全、余暇活用のための森林ニーズが高まる中、明治100年記念行事の一環として昭和45年11月21日に開園した。

294ヘクタールの豊かな自然の中に総合センターをはじめ、ログキャビン、キャンプ場、体育館等の施設と森林の自然環境を活かした遊歩道等が整備されている。散策やハイキング、自然体験など自然を中心としたリクリエーションの拠点として幅広い年齢層の方々に活用されている。

⑥西蓮寺(天台宗)

内浦字谷やつに所在。山号は東光山。院号は地福院。本尊は「薬師如来坐像」。創建は平安時代の天安2年(858)、天台宗の高僧円仁えんにん(慈覚大師)によると、同寺の由緒書と村誌には記されている。村誌によれば、境内薬師堂の本尊である薬師如来坐像は円仁の作と伝えられており、12年毎の寅年にご開帳される秘仏である。

⑦吾妻神社(祭神は、あすましんじや橘姫命)

内浦字合戸ごうとに所在。神社の言い伝えによれば、日本武命やまとたけるのみことが天皇から東国の征伐を命じられ、相模(現・神奈川県)の浜から走水の海(浦賀水道)を渡り、房総半島に向かう途中、海の神に妨害されて船が進まなくなった。この時、タケルの妃であるタチバナヒメが海中に身を投じて海の神の怒りを鎮めたことにより、タケルは無事に房総に上陸。東征の役目を果たすことが出来た。その後、タチバナヒメの遺体が当所に流れ着いたので、住民は手厚く葬った。タケルも東征の帰路当地に立ち寄り、ヒメを追慕して社殿を建て、筭(かんざし)1個、鏡八面を神宝として納めたと伝えられている。

⑧善龍寺(浄土真宗本願寺派)

内浦字新町しんまちに所在。山号は古谷山。本尊は「阿弥陀如来」。開基は玄智法師。寛永年中のことで、当初は海岸近くにあったが、元禄16年(1703)の大津波によって流失し、その後、享保14年(1729)に遠州掛川より入寺した了山師(中興)によって現在地に再建された。小湊は東北の米などを江戸へ運ぶ回船の中継地(避難港)であったことで、当時に残る「諸国廻船溺死人過去帳」には、貞享(1684年)から明治6年(1917)までの海難者の記録がある。また、紀州からの漁民の記録や墓石も現存する。安政4年(1857)に死去した「寶樹院釋道法師ほうじゆいんしやくおんどう」の筆子塚があり、この碑の建立に賛同した弟子(筆子=手習いの弟子)の名が刻まれている。

⑨若宮八幡神社(祭神は、わかみややはちまんじんじや大雀命、おおさざさのみこと天照大神)

内浦字新町しんまちに所在。創建年代は不詳だが、徳川時代の初期、西国から漁撈のために来房して土着した人々が、浪花(現・大阪)に都して徳があり、情け深い大王とたたえられたオオサザキの神を奉祀したのが当社。貞享・元禄の頃(1684-1703)に当地区の氏神として広く信仰されたと『神社名鑑』には記されている。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成23年12月

作図 辰野節子